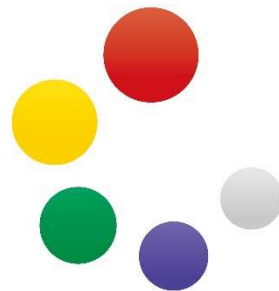


2023（令和 5）年度 事業報告書

自 令和 5 年 4 月 1 日
至 令和 6 年 3 月 31 日



社会福祉法人
同和園

目次

1	総括	3
2	サービス事業所事業報告	5
(1)	特別養護老人ホーム	5
(2)	養護老人ホーム	6
(3)	同和園ショートステイ	6
(4)	同和園デイサービスセンター	9
(5)	西野の家「はなさんち」通所介護事業所	10
(6)	日野の家「げんさんち」通所介護事業所	12
(7)	同和園ホームヘルプステーション	13
(8)	同和園訪問看護ステーション	15
(9)	同和園居宅介護支援事業所・西野居宅介護支援事業所	16
(10)	配食サービス	18
(11)	京都市醍醐北部地域包括支援センター	18
3	法人本部事業報告	21
(1)	総務課・経理課	21
(2)	人事課	22
(3)	国際人材育成支援室	23
(4)	コミュニティカフェ	24

I 総括

(1) 新型コロナウイルス感染症対応状況

令和5年5月8日より、新型コロナウイルス感染症の位置づけが「新型インフルエンザ等感染症」の2類相当から5類感染症へ引き下げられた中、施設内においては昨年度のような大規模な集団感染は生じませんでした。しかし、令和5年4月1日から令和6年3月31日までの期間において、ご入居者・ご利用者107名、職員83名、合計で190名が感染しましたが、全員重症化することなく治癒しました。

感染防止対策として、消毒液、ガウン、手袋、防塵マスクなどの衛生用品について常に備蓄する必要があるが、また、物価高によりコストが増加しましたが、施設内療養等に係る補助金の活用や経費削減等に努め、影響を最小限に留めることができました。

(単位：名)

	ご入居者・ご利用者	職員	計
在宅部門	2	20	22
施設部門	105	63	168
計	107	83	190

(2) 経営資源の強化

特別養護老人ホームで休止していた5丁目フロアの東町ユニット12床の再開を8月にすることができました。収入面においては、各サービス拠点が目標収入を確保したこと、並びに新型コロナウイルス感染防止対策補助金、物価高騰対策支援補助金、食材高騰対策支援補助金等、可能な限り補助金を活用したことで、昨年度末に事業廃止した百々老人デイサービスの収入減があった中、法人全体で収入増加が図れました。

支出面では、事業費において高騰している食材料費等の見直しを行ったことで費用の削減ができました。人件費において、業務の見直しを図り、前年度より時間外労働を縮減することができ、法人全体の事業収支を黒字化することができました。

(3) 人材確保

- ・職員の育成と定着への取り組みとして、lonl 面談実施や新人歓迎会開催などの福利厚生等で組織力の強化を行ったことで、離職者数を令和4年度から9名少ない20名まで減少させることができました。
- ・京都府内の大学、専門学校等の教育機関への訪問や就職フェアに参加し人材確保に取り組みました。また、内定後も内定者向けの研修や懇親会を開催したこと等で新規卒業者を17名採用することができました。また、国際人材育成支援の取り組みによりチャンマーからの特定技能5名を受入れすることができました。

(4) 介護人材育成システムの構築

- ・キャリアパスプロジェクトを中心に職員一人ひとりが求められる役割や専門性の向上

など業務の見える化を図り、職員のキャリアパスに繋がられるよう人事考課制度の再構築のために新たに評価シートを見直し、令和 6 年度に試行運用できるよう準備をすすめました。

- ・介護技術研修や介護福祉士取得講座を実施することで、介護の専門職として育成できる研修の機会を確保しました。

(5) コミュニケーション能力の強化

lonl 面談プロジェクトにおいて、職員間コミュニケーションや上司と部下の対話が促進されるよう推進担当者会議を定期的を開催し、効果的な lonl 面談の実施を推進しました。

(6) 大規模災害や感染症を想定した事業継続計画（BCP）の策定

全ての事業所で大規模災害や新型コロナウイルス感染症等に対応できる事業継続計画（BCP）を作成し、災害や感染症に対しての備えを強化しました。

(7) 山科エリアの地域支援強化

前年度末に山科区百々拠点を廃止したことにより、居宅介護支援事業所を西野拠点に移し山科エリアの拠点として同和園居宅介護支援事業所と連携して取り組みました。

(8) 100 年史の発刊

継続して編纂を続けていた「同和園 百年史」を令和 5 年 10 月に発刊することができました。

(9) 同座閣の壁画修繕

経年劣化により破損していた同座閣の壁画を修繕するため、同和園後援会、同和園応援団を通じて多くの方に出資を募り、修繕をすすめることができました。

2 サービス事業所事業報告

(1) 特別養護老人ホーム

①ご入居者支援

- ・多職種協働で各専門性を活かした最良のケアの提供を目指し、各部署で入居後カンファレンス、退院後カンファレンスの場を設けることができました。
- ・新型コロナウイルス感染症の集団感染が発生したことでご入居者の生活に大きな影響が出たことも踏まえ、事業継続計画（BCP）を策定しました。
- ・新規入居、退院時、また、日々のアセスメントを行う機会を持つことで、実践に繋がるまでのプロセスや方法を協議、検討することができました。

②職員体制

- ・ご入居者のニーズに合わせたアセスメントを行う機会を設けることができました。
- ・トータルリスクマネジメント委員会の虐待防止班を中心に尊厳をテーマに不適切ケアを考える研修を実施しました。認知症への対応力向上に向けて、1月に嘱託医師でもある森医師による研修を実施しました。しかし、定期的な研修を実施することはできませんでした。
- ・各職種が専門性を高めるためにトータルリスクマネジメント研修を12月にリーダー・副主任を対象に行い知識の底上げを図りましたが、専門職に特化した研修は実施できませんでした。
- ・効果的に物事が決まり実践していくための会議運営ができるよう、役職者を対象に「参加したくなる会議」の研修を実施しました。

③地域支援

- ・地域で生活されている独居高齢者に対して、「京都市高齢者すまい・生活支援事業」による住居確保や生活支援を実施しました。
- ・施設が持つソフト、ハード両面の機能を最大限に活かし、ご入居者及びご家族を対象とした敬老模擬店や法人内の地域ケア委員会と協働して「丘の上フェスティバル」を開催することできました。
- ・特別養護老人ホームの空床ベッドを活用した短期入所の利用を目指していましたが実施できませんでした。

④経営管理目標

- ・休止していた5丁目フロアの東町ユニット12床を8月に再開したことで304名定員の運営を行うことができました。
- ・特別養護老人ホームにおける年間平均稼働率97%以上の目標は、入院者と退居者が見込みより多く達成することができませんでした。

(2) 養護老人ホーム

①ご入居者支援

- ・ご入居者の生活スタイルと活動に目を向け、リズム体操やラジオ体操の機会を設けたことで、多くのご入居者に参加して頂くことができました。また、体操を通じてご入居者同士のコミュニケーションを構築される場となるような支援を行うことができました。
- ・ご入居者のやりがいと活力につながるようにフィットネスの場を設置し、告知の方法を工夫し、参加者を表彰するプロセスを構築するなどしたことから、参加されるご入居者の増加につながり定着しました。
- ・様々な生活歴を抱えた方が入居されており、尊厳を守りつつ個々に合わせたコミュニケーションをとることを目指し、適切な言葉かけができるよう取り組みました。

②職員体制

- ・ご入居者の尊厳を守ることに対して職員の接遇マナーの取り組みを行うことで、言葉使いについて日々の勤務の中で振り返る機会を設けることができました。
- ・ご入居者の満足度につながる認知症ケアの質の向上に取り組みましたが、実際の過ごしの中ではコミュニケーションの難しさと職員間の情報共有に課題が残りました。
- ・新型コロナウイルス感染症による集団感染が発生した際のご入居者の体調確認の方法について協議しました。

③地域支援

特別養護老人ホームと協働し、ご入居者及びご家族対象の敬老模擬店を開催できました。

④経営管理目標

- ・福祉事務所との連携を密に行い、必要な方に速やかに入居していただけるよう取り組み、基本的に毎月90名定員に近いご入居者を維持することができました。
- ・新型コロナウイルス感染症による入院による影響もあり年間入居率98%以上の目標には届きませんでした、97.6%と目標に近い入居率となりました。

(3) 短期事業所（ショートステイ）

①ご利用者支援

- ・ご利用者の心身状態の維持向上が図れるよう、多職種が協働して支援を行うことができました。
- ・各職種が専門的な視点を活かした意見交換を行い、ご利用者の日々の過ごしの様子を担当ケアマネジャーに報告し情報共有することで、在宅生活の支援の一翼を担うことができました。
- ・介護者の介護負担軽減のため、緊急の利用希望などにできる限り応えることができました。

た。

②職員体制

- ・多職種で短期入所事業所の運営、ご利用者の過ごしについて議論する場を持ち、実際のご利用者の過ごしの場について見直しをすることができました。

③地域支援

- ・法人内の機能・体制を活かし、居宅介護支援事業所と協働し地域で必要とされる方へ配食サービスの提供を行うことができました。

④経営管理目標

- ・人員体制の確保等により、年度途中に稼働制限を設けた結果、目標数値の達成が出来ませんでした。
- ・30日を超え連続で利用されるご利用者において、長期利用減算を受けないよう担当ケアマネジャーと連携し、特別養護老人ホームへの入居など適切な支援を行いました。

< 特別養護老人ホーム >

①介護度の分布

	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	合計	平均
令和5年3月末	1	0	102	106	74	283	3.89
令和6年3月末	0	1	112	116	73	302	3.86
対 比	△1	1	10	10	△1	19	△0.03

②退去者・新規入居者の介護度の分布（特別養護老人ホーム）

	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	合計	平均
新 規	0	0	40	40	10	90	3.66
退 所	0	0	14	32	25	71	4.15
内、園内にて死亡 （看取り加算）	0	0	7 (5)	16 (13)	19 (16)	42 (34)	4.28
内、園外にて死亡 （看取り加算）	0	0	3 (0)	8 (0)	4 (0)	15 (0)	4.06
内、療養型等の病院 へ転寮（退居）	0	0	4	8	1	13	3.76
内、在宅復帰	0	0	0	0	1	1	5.00

③稼働率・延べ人員（特別養護老人ホーム）

（定員 304 名）

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計	平均
月末人数	287	288	287	287	302	303	303	301	303	303	303	302	3569	297
延人数	8309	8725	8422	8777	9061	8838	9176	8808	9205	9043	8515	9119	105998	8833
入所	10	9	8	8	20	7	5	4	5	5	3	6	90	7.5
退所	4	10	9	8	5	6	5	6	3	5	3	7	71	5.9
定員 292 名稼働率	94.8	96.3	96.1	96.9	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
定員 304 名稼働率	—	—	—	—	96.1	96.9	97.3	96.5	97.6	95.9	96.5	96.7	—	—

※ 定員 令和 5 年 4 月～7 月 292 名、令和 5 年 8 月～304 名

令和 5 年度延利用人数 105998 名

令和 5 年度平均稼働率 定員 292 名（4 月～7 月）96.0%

定員 304 名（8 月～3 月）96.6%

令和 4 年度延利用人数 103627 名

令和 4 年度平均稼働率 定員 292 名（4 月～3 月）97.2%

< 養護老人ホーム（特定施設入居者生活介護を含む） >

①入居者の異動状況

定員	90
退所者	12
内、園内にて死亡	3
内、園外にて死亡	3
内、特養へ転寮	6
内、療養型へ転寮	0
内、在宅復帰	0
新規入居者	10
延べ人数	32088

②月入所人数・延人数

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計	平均
入所人数	90	90	90	90	90	90	90	90	90	89	90	90	1079	89.9
延人数	2685	2749	2640	2696	2705	2646	2727	2637	2741	2645	2516	2701	32088	2674
平均利用人数	89.5	88.6	88.0	86.9	87.2	88.2	87.9	87.9	88.4	85.3	86.7	87.1	—	87.6

③月契約人数・延人数（特定施設入居者生活介護のみ）

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計	平均
契約人数	48	48	48	47	46	47	48	48	48	47	46	47	568	47.3
延人数	1435	1449	1386	1408	1374	1410	1450	1437	1480	1411	1325	1399	16964	1413.6
平均利用人数	47.8	46.7	46.2	45.4	44.3	47.0	46.7	47.9	47.7	45.5	45.6	45.1	—	46.3

< 短期入所事業所 >

事業実績（定員 24 名）

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計	平均
実人員	51	46	51	53	50	45	48	45	43	37	37	35	541	45
延人数	494	442	473	501	416	360	335	340	328	293	271	313	4566	380.5
平均利用人数	16.4	14.2	15.7	16.1	13.4	12	10.8	11.3	10.5	9.4	9.3	10	—	12.4
稼働率	68.6	59.4	65.6	67.3	55.9	50	45	47.2	44	39.3	38.9	46.6	—	52.3

令和 4 年度延利用人数 5771 名

令和 4 年度平均稼働率 65.9%

(4) 同和園デイサービスセンター

①ご利用者支援

- ・ご利用者個々に在宅生活を長く継続して頂くために自立支援を目的とした機能訓練計画書を新たに作成し、機能訓練に取り組みました。
- ・入浴を午前に集中することで、午後にレクリエーションの種類と個別の訓練プログラムを増やすことができ、ご利用者の活動量の増加につながりました。
- ・事業継続計画（BCP）を策定し、研修や訓練を通して防災意識を高めました。

②職員体制

- ・定期的に研修や会議を通して、ご利用者の自立支援について検討し、ご利用者主体の支援に心がけました。また、レクリエーションにおいても職員のみで考えるのではなく、ご利用者と共に企画することができました。
- ・外部の認知症研修に参加し、認知症ケアの充実を図ることができました。対応の難しいご利用者について事例検討を実施したことで情報共有することができました。

③地域支援

- ・法人内の地域ケア委員会主催の、「丘の上フェスティバル」に参加することを通し、地域との交流を図りました。

- ・同和園のInstagramアカウントを活用して、デイサービスで実施している活動内容を外部へ発信することができました。

④経営管理目標

- ・ご利用者主体で活動していただくことで、職員配置を見直してシフトの数を減らしました。それにより少ない職員数での対応が可能となりました。
- ・1日のスケジュールやレクリエーションの内容を見直したことで、長時間利用されるご利用者が増加しました。
- ・ご利用者の自立支援を目的に、機能訓練計画書を見直したことで機能訓練加算Ⅱを取得できました。
- ・臨時利用の希望者を募り、空きが出たときに利用していただくご利用者を登録することで、安定した稼働率の確保に結び付けられました。

事業実績 同和園デイサービスセンター（定員 65 名）

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
営業日数	25	27	26	26	27	26	26	26	25	24	25	26	309
最大利用 可能人数	1625	1755	1690	1690	1755	1690	1690	1690	1625	1560	1625	1690	20085
延利用人数	939	1006	1043	1000	959	1028	967	947	960	913	978	1036	11776
一月当たり 実人員	137	143	147	139	138	135	130	130	135	147	137	138	1656
一日当たり 利用人数	37.6	37.3	40.1	38.5	35.5	39.5	37.2	36.4	38.4	38.0	39.1	39.8	38.1
65 名定員 稼働率	57.8	57.3	61.7	59.2	54.6	60.8	57.2	56.0	59.1	58.5	60.2	61.3	58.7
40 名定員 稼働率	93.9	93.1	100.3	96.2	88.8	98.8	93.0	91.1	96.0	95.1	97.8	99.6	95.3

※ 合計欄のうち、一日当たり利用人数及び稼働率は年間平均

※ 定員 40 名として運営した場合の年間平均稼働率は 95.3%

※ 令和 4 年度平均稼働率 62.6%

(5) 西野の家「はなさんち」通所介護事業所

①ご利用者支援

- ・ご利用者の能力に合わせて個別レクや集団レクの活動を検討して実施することができましたが、外出レクの取り組みが今後の課題となりました。

- ・ご家族や担当ケアマネジャーとご利用者の情報を共有することでQOLの向上につなげることができました。また、ご利用者、ご家族にとって「はなさんち」が相談できる場所となるよう取り組むことができました。

②職員体制

- ・日々のミーティングや全体会議で、ご利用者個々のケアや課題を共有することを通じて職員が自信を持って、安心してご利用者のケアに向き合えました。
- ・勉強会の実施や研修を通じ、知識や技術の向上につなげることができました。

③地域支援

- ・感染症に引き続き注意を払い、ボランティア活動を再開しました。
- ・運営推進会議を2回開催（8月、2月）し、西野まつりにオレンジトライアングルの事業所と協働で参加するなどの支援活動を行うことができました。

④経営管理目標

- ・新規利用や不定期利用の調整を行いましたが、長期入院や施設等への入所などで年間平均稼働率86.8%となり年間目標の90%には達しませんでした。
- ・常に意識して無駄がないよう経費削減に努めました。

事業実績 西野の家「はなさんち」通所介護事業所（定員12名）

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
営業日数	25	27	26	26	27	26	26	26	25	24	25	26	308
最大利用 可能人数	300	324	312	312	324	312	312	312	300	288	300	312	3708
延利用人数	260	300	269	287	292	271	273	278	250	237	248	256	3221
一月当たり 実人員	31	31	32	36	36	36	33	33	33	32	34	30	397
一日当たり 利用人数	10.4	11.1	10.3	11.0	10.8	10.4	10.5	10.7	10.0	9.9	9.9	9.8	10.4
稼働率	86.7	92.6	86.2	92.0	90.1	86.9	87.5	89.1	83.3	82.3	82.7	82.1	86.8

※ 合計欄のうち一日あたり利用人数及び稼働率は年間平均。

※ 令和4年度平均稼働率87.6%。

(6) 日野の家「げんさんち」通所介護事業所

①ご利用者支援

- ・ご利用者が自主的に参加することができるよう役割や目的を持った活動を実施しました。情報の共有を図ることにより、職員が必要以上に手出ししてしまわないよう取り組みました。
- ・ご家族と送迎時や電話連絡時に情報共有をこまめに行うことで、良好な関係性を保つことができました。
- ・4年ぶりに家族懇談会を開催することができ、8家族 16 名のご家族が参加されました。

②職員体制

- ・lonl 面談を定期的の実施し、職員個別の課題についてもコミュニケーションを図ることができました。
- ・ご利用者個別のケアについて、毎日朝夕のミーティングや職員会議の場で情報共有を図り、効果的な支援を行うことができました。
- ・業務効率化のため、業務マニュアルのシフト業務・ケア確認シートについて改善しました。

③地域支援

- ・まちかどステーション「暮らしの保健室日野」は毎月開催できましたが、参加者が固定化しないよう、開催内容についての検討を進めました。
- ・ボランティアの受入れを再開し、定期的に 10 組のボランティアの活動につながりました。
- ・4年ぶりに開催された日野自治会主催の秋祭り「ふれあい広場」に参加することができました。
- ・併設のコミュニティカフェ工房「ひのぼっこ」（8月から休止）の有効活用について検討を進めました。

④経営管理目標

- ・利用を終了されるご利用者が多くあり、月次稼働率には大きな影響があり、年間稼働率は 86.7%となり、年間目標の 90%を 3%下回りました。
- ・人員配置の見直しを行い、適正な事業運営に努めました。
- ・電気や水道の節約等コスト削減に取り組みました。

事業実績 日野の家「げんさんち」通所介護事業所（定員 25 名）

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
営業日数	25	27	26	26	27	26	26	26	25	24	25	26	309
最大利用 可能人数	625	675	650	650	675	650	650	650	625	600	625	650	7725
延利用人数	559	581	529	558	536	547	584	612	555	513	542	580	6696
一月当たり 実人員	72	76	77	84	80	78	83	86	86	83	84	84	973
一日当たり 利用人数	22.4	21.5	20.3	21.5	19.9	21.0	22.5	23.5	22.2	21.4	21.7	22.3	21.7
稼働率	89.4	86.1	81.4	85.8	79.4	84.2	89.8	94.2	88.8	85.5	86.7	89.2	86.7

※ 合計欄のうち、一日当たり利用人数及び稼働率は年間平均

※ 令和 4 年度平均稼働率 84.6%

（7）同和園ホームヘルプステーション

①ご利用者支援

- ・ご利用者の「できる力」を観察し、定期的に事業所内カンファレンスや事例検討会を行い具体的な支援方法を検討し実施しました。
- ・カンファレンスの内容を担当ケアマネジャーに報告し、支援の実施方法を検討する担当者会議につなげることができました。

②職員体制

- ・認知症介護実践者研修を修了した職員が 1 名増え、事業所の認知症研修を主体的に進めることが出来ました。
- ・トランスファー研修や事例検討を各職員が企画立案し、研修の講師を自ら勤めて実施することができました。
- ・各職員が事務作業を役割分担したことで、急にキャンセルが入った場合などの待機時間を有効活用できるようになりました。
- ・職員面談を通じて意欲や希望を聞き取り、それに基づいて非常勤職員の支援に従事できる日数を増やすことにつながり、ご利用者の支援時間を増やすことができました。

③地域支援

- ・井戸端サロンを継続して開催し地域の交流の場を提供でき、ご利用者とのつながりを通じて参加者が増えました。
- ・法人内の地域ケア委員会と協働して「丘の上フェスティバル」を開催し、地域の方々と交流を深めることができました。
- ・居宅介護支援事業所や地域包括支援センターと連携を図り、年間で 36 名の新規ご利用者と契約を行い、また緊急時・臨時の支援の依頼を受けた場合においても積極的に

活動しました。

④経営管理目標

- ・月平均訪問延人数が1042名となり、1000名以上と設定していたご利用者支援目標を達成できました。
- ・ご利用者本人との共同実践や見守りの支援を意識した結果、身体介護の割合は前年同様の割合を維持することができました。

事業実績 同和園ホームヘルプステーション

(介護保険法：訪問介護)

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計	平均
延人数	813	846	828	813	833	816	845	826	824	841	826	874	9985	832.1
実人員	104	105	104	103	100	101	104	102	105	103	108	107	1246	103.8

※ 令和4年度 月平均延人数 732.5名

※ 令和4年度 月平均実人員 92.1名

(介護保険法：総合支援介護型)

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計	平均
延人数	168	185	113	129	142	147	146	168	169	151	154	167	1839	153.3
実人員	28	30	30	29	29	34	32	30	32	32	32	29	367	30.6

※ 令和4年度 月平均延人数 143.5名

※ 令和4年度 月平均実人員 27名

(介護保険法：総合支援生活型)

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計	平均
延人数	57	55	48	44	53	50	56	53	48	48	48	55	615	51.3
実人員	13	12	12	12	12	13	14	13	13	13	11	12	150	12.5

※ 令和4年度 月平均延人数 50.7名

※ 令和4年度 月平均実人員 13.7名

(介護保険法：総合支援支え合い型)

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計	平均
延人数	10	9	13	5	4	4	5	4	4	4	8	8	78	6.5
実人員	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	24	2.0

※ 令和4年度 月平均延人数 7.1名

※ 令和4年度 月平均実人員 1.4名

(8) 同和園訪問看護ステーション

①ご利用者支援

- ・ご利用者が住み慣れた地域で、「自分らしく」最期まで在宅生活が継続できるように、ご利用者のご家族のニーズの変化に寄り添い、関係機関と連携しながら在宅看取りや認知症ケアを実施しました。
- ・災害時用の安心カードを作成、配布し、災害時の備えについて、ご利用者やご家族と話し合いを行い、災害対策の意識を高める活動を行いました。また、安心カードは担当ケアマネジャーとも内容を共有しました。
- ・ご利用者お一人で行事に参加する事が困難なご利用者に対して自費による訪問看護の対応を2件実施しました。

②職員体制

- ・職員間の情報共有を行うにあたり、iPadを活用しました。
- ・毎月の事例検討会で困難事例の検討を行い、情報と目標を共有し方向性を確認しました。また、看取りの振り返りも実施し、良い効果のあったケアを共有しました。
- ・毎月勉強会を実施すると共に、外部への研修参加も積極的に行いそれぞれの分野での専門職の事例を参考に、日々の援助に活かす事ができました。
- ・法人内の看護師協働で皮膚排泄ケア研修を開催し、他部署の看護師との連携を強化しました。

③地域支援

- ・主治医や担当ケアマネジャー、他事業所との連絡に ICT を活用し迅速かつ正確な情報共有を行いました。
- ・ご利用者の継続的な看護を意識し、入院や入所時には病院や施設に看護サマリーを交付し、また、退院時にはカンファレンスに参加して連携を行いました。
- ・通所介護や訪問介護など、他事業所との継続的ケアを意識し、連絡連携の工夫を行いました。

④経営管理目標

- ・月平均延人数は326.7名と前年度の311.3名を15名上回り、一月当たり利用人数は61.5名と前年度の56.7名を5名近く上回りました。
- ・事業継続計画（BCP）や虐待防止対応のマニュアルの見直しを行い、計画的に研修を実施しました。
- ・災害対策マニュアルに従い、緊急時訪問優先度の判断基準に準じたトリアージを毎月行いました。
- ・看護職員を増員したことで、看護職員の負担軽減に繋がりました。

事業実績 同和園訪問看護ステーション

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計	平均
営業日	25	27	26	26	27	26	26	26	25	24	25	26	309	25.8
延べ利用人数	285	307	297	292	342	366	364	322	356	311	324	354	3920	326.7
一月当たり 利用人員	54	57	57	54	60	63	65	63	67	65	65	68	738	61.5
一日当たり 利用人数	11.4	11.4	11.4	11.2	12.7	14.1	14.0	12.4	14.2	13.0	13.0	13.6	-	12.7
定期巡回・随 時対応型訪問 介護看護件数	6	6	4	2	4	4	4	4	4	3	2	3	46	3.8
自宅での看 取り件数	1	1	0	0	1	0	3	0	2	0	1	0	9	0.8

※ 令和４年度 平均延べ利用人数 311.3 名

※ 令和４年度 平均一月当たり利用人数 56.7 名

(9) 同和園居宅介護支援事業所・西野の家「はなさんち」居宅介護支援事業所

①ご利用者支援

- ・アセスメントを充実することで、ご利用者の生活課題を明確にし、住み慣れた地域で「自分らしい生活」ができるよう、研修や会議で共有を図りました。
- ・事業継続計画（BCP）を策定し訓練を実施しました。また、職員や来園者にも防災意識を高めていただけるように防災用品の展示・啓発も行いました。

②職員体制

- ・同和園居宅介護支援事業所、西野の家「はなさんち」居宅介護支援事業所の運営の一体化を図り、朝礼や毎週の定例会議、研修を合同で行い、情報の共有や事例検討を行い、両事業所の豊富な実践事例を共有し、他の職員への伝達研修を行いました。また、役職者や主任ケアマネジャーを中心として、全ケアマネジャーのマネジメント能力の向上を図りました。
- ・各エリアの事業所連絡会や勉強会等に参加し、日ごろから顔の見える関係構築を心掛け、多職種との連携の強化を図りました。
- ・コンプライアンスを遵守し、運営基準違反や減算とならないよう、主任ケアマネジャーや事業所内の「監査班」を中心として、お互いに確認し合う体制を構築しました。

③地域支援

- ・介護サービスの日常生活圏域の病院の地域連携室や診療所等と日頃の連携を図り、医療

関係の研修等への参加、医師との交流会にも参加しました。

- ・虐待を疑われるケースや、支援困難ケース等の事例検討をする中で、ケースに潜んでいる地域課題に気づくことが多くあり、新たな社会資源の発掘や開発、地域マネジメントを実施する必要性に迫られました。
- ・新型コロナウイルス感染症の位置づけが5類に移行したことで、法人内の地域ケア委員会も活動を再開し、他法人や地域の団体も参加した「丘の上フェスティバル」を開催し地域の方々と交流を図ることが出来ました。

④経営管理目標

- ・各ケアマネジャーの給付管理件数を偏りなく増やし、最終的に両事業所合わせて 320 件以上／月の目標値を大きく上回り、338 件の給付管理を行い、収支状況の改善を図ることが出来ました。
- ・地域包括支援センターや病院等に働きかけ、可能な範囲で緊急対応にも応じる体制を整え、安定して給付管理件数が維持できるよう関係構築も行いました。
- ・ICT を活用し、各職員が行っている業務効率の手段を共有し、業務内容の見直しや事務作業軽減を図り、超過勤務の削減に努めました。

事業実績 同和園居宅介護支援事業所

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計	平均
給付管理 件数	155	165	186	195	208	199	213	217	223	219	216	234	2430	202.5
受託件数	17	15	17	17	19	20	22	21	21	20	20	19	228	19.0
合計件数	172	180	203	212	227	219	235	238	244	239	236	253	2658	221.5

※令和4年度 月平均合計件数 205.1 件

事業実績 西野の家「はなさんち」居宅介護支援事業所

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計	平均
給付管理 件数	127	130	132	133	137	144	138	138	132	138	135	142	1626	135.5
受託件数	9	10	7	8	7	6	6	5	5	4	4	5	76	6.3
合計件数	136	140	139	141	144	150	144	143	137	142	139	147	1702	141.8

※令和4年度（百々居宅介護支援事業所） 月平均合計件数 144.3 件

(10) 配食サービス

- ・配食ドライバーの業務時間短縮や人員減少により、新規ご利用や増回につながらず、食数が自然減となったことから、令和5年度末をもって配食サービスを廃止しました。ご利用者やご家族、担当ケアマネジャーへ説明を行い、ご理解を得る中で円滑に順次別の配食事業所に移行していただくことができました。
- ・最後の日までご利用いただいた利用者に対し、安否確認機能を継続しました。

事業実績 配食サービス

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計	平均
配食数	266	262	251	255	252	188	195	188	186	166	127	101	2437	203.1
実人員	15	14	14	14	14	13	13	13	13	13	12	8	156	13.0

※令和4年度 平均配食数 343.1 食 平均実人員 18.9 人

(11) 京都市醍醐北部地域包括支援センター

①ご利用者支援

- ・「個別ケース検討地域ケア会議」を23件開催しました。(内訳：支援困難ケース6件、自立支援に資するもの17件)。特に、自立支援に資する地域ケア会議は、介護予防推進センターとの積極的な協力体制の構築が奏功し、他の地域包括支援センターより開催回数が多くなっています。
- ・学区民生児童委員協議会の会議に参加し、個別事例について情報交換や意見交換を行いました。
- ・学区民協への会議参加回数

北醍醐	醍醐	醍醐西	池田	池田東
12	1	4	1	4

- ・「カフェ de おれんじサロン」(認知症カフェ)を運営し、認知症の人とご家族の支援を行いました。
- ・京都市の認知症初期集中支援チームと協働して、新たに11件の支援を開始しました。
- ・消費者被害や権利擁護に関する相談を58件受け、5件について法定後見の申し立てを行いました。地域の支援体制の充実、権利擁護に関する意識の高まりを受け、今後、件数の増加に対応できる体制を整えました。
- ・介護予防推進センターとの連携を強化することで、ケアマネジメントCを充実して実施することができました(12件)

②職員体制

- ・内部研修を6回実施し、職員の知識・技能の向上・平準化に努め、包括協主催の新任者・現任者・管理者それぞれの研修に参加しました。
- ・事業継続計画(BCP)を作成しました。

- ・経験年数の浅い職員に対しても重点的に研修の機会を設け、安定した職員体制の充実を目指しました。

③地域支援

- ・「災害支援」をテーマとした日常生活圏域の地域ケア会議を2か所で開催し、職種・立場の枠を越えた意見交換を行い、課題の抽出・共有を図りました。
- ・「公園体操」など住民主体の介護予防事業を支援しました。
- ・地域の商業施設の協力を得て、他の地域包括支援センター・介護予防推進センター・福祉用具貸与事業所・伏見薬剤師会・醍醐支所健康長寿推進課と協働で、介護予防等についての地域住民向けイベント「MOMO いきいき応援広場」、「元気！はつらつフェスティバル in 醍醐」を開催しました。
- ・「介護予防 Zoom 教室」を地域住民向けに11回開催しました。
- ・地域住民主体の居場所づくりに参画し、安定した運営に向け協力しました。住民主体の地域サロンが徐々に軌道に乗っていることが確認でき、地域包括支援センターとしても、地域支援の経験値を高めることができました。
- ・「権利擁護ネットワーク」において研修を開催し、地域関係機関のスキルアップを図りました。
- ・居宅介護支援事業所の主任介護支援専門員との意見交換会を5回、醍醐北部圏域の居宅介護支援事業所の介護支援専門員も参加する事例研究会を1回開催しました。
- ・地域の薬局との連携力を高める目的で、伏見薬剤師会・居宅介護支援事業所との交流会を開催しました。

④ 経営管理目標

- ・給付管理件数は、対前年度比で223件増加しました。
- ・介護予防支援の受託に積極的な居宅介護支援事業所が少なく、介護予防支援担当件数が上限を超過し、京都市の運営委託費の一部返還の対象事業所になりましたが、受託する事業所が少ないことや法人として人員補充のための求人活動を積極的に行っていることなどが評価され、特例措置として、返還は免除されました。
- ・住民主体の活動や一般介護予防事業など、介護保険サービス以外の事業も積極的に活用することで担当者ごとの給付管理件数の適正化に努めました。

事業実績 京都市醍醐・北部地域包括支援センター

●総合相談支援

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計	平均
件数	386	372	377	377	363	371	367	352	345	345	336	330	4321	360.1

※令和4年度平均件数：350.5件

●介護予防支援・介護予防ケアマネジメント A 給付管理

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計	平均
件数	398	402	410	415	411	416	416	409	412	405	403	409	4906	408.8
うち委託	106	108	113	115	114	117	114	116	122	119	123	122	1389	115.8

※令和4年度平均件数：390.3 件（うち委託 108.2 件）

※ケアマネジメント C 12 件

●1人暮らし高齢者全戸訪問事業

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計	平均
訪問件数	0	32	25	30	27	39	28	30	36	24	28	25	324	27.0
同意書取得数	0	0	0	1	0	1	0	1	0	1	0	0	4	0.3

※令和4年度訪問件数 312 件 同意書取得数 12 件

●虐待相談

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計	平均
相談件数	5	4	2	2	5	9	2	1	1	3	1	1	36	3.0

※令和4年度 26 件

●包括的継続的ケアマネジメント（ケアマネ支援）

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計	平均
相談件数	4	9	6	11	17	9	9	11	9	5	3	2	95	7.9

※令和4年度相談件数 161 件

●カフェ de おれんじサロン

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計	平均
参加者数	9	7	13	9	7	8	7	8	5	6	8	5	92	7.7

3 法人本部事業報告

【組織基盤の強化】

①組織の改編

- ・令和5年4月1日の定期人事異動に合わせて、基盤強化を目指し組織の改編を行いました。
- ・施設部と在宅部の相互連携の強化を図りました。

②キャリア形成

- ・職員のキャリア形成支援に向けたプロジェクトを推進し、職員の確保、育成、定着のより一層の推進について支援しました。
- ・働きやすい職場環境づくりを目指し、職員の多様な働き方ニーズに対応した環境の整備に取り組みました。

【財務基盤の強化】

①収入構造の安定

- ・安定した事業運営ができるよう財務基盤の立て直しを目指し、令和5年8月に特別養護老人ホームにおいて休止していた5丁目フロア東町ユニット12床を再開したことで収益増加に繋がりました。
- ・多職種連携により各種加算の取得を進めました。
- ・新型コロナウイルス感染防止対策補助金、物価高騰対策支援補助金、食材高騰対策支援補助金を取得するなど収益増加に努めました。

②予算の適正執行

- ・高騰する食材料費についてご入居者の食生活に影響しない範囲ですべての食材料の見直しを行い、コストを削減することができました。また、電気・ガス料金は国の補助金を取得し前年度1億3321万円と比較して3014万円下回りました。
- ・正確な会計処理を行い、毎月法人全体の収支状況と事業所ごとの収支状況及び予算実績対比を適宜実施し、管理職員会議等で周知し役職者のコスト意識の向上を図りました。

(1) 総務課・経理課

①法人役員との情報共有

- ・四半期ごとをめぐり理事長及び副理事長と現場職員との対話の場を設け情報共有を図りました。

②建物・設備等の適切管理

- ・式番館の空調設備であるHRC2号機について、燃焼系統の分解整備修理を実施しました。
- ・式番館全体の生活用水を供給するための加圧給水ポンプを更新しました。
- ・京都府介護ロボット等導入支援事業による補助金を活用し、見守り機器である「見守

リライフ」活用のための Wifi 環境整備を実施しました。

- ・保守管理、修繕を依頼する場合は常にコスト削減を意識し業者に発注しました。
- ・原油価格高騰等により、食材料費、介護用品、日用品等の価格が上昇しましたが、厳格な見積もり合わせを実施するなど費用の低減に努めました。

③危機管理対策

- ・新型コロナウイルス感染症の感染防止対策を講じた上で、3 回の避難訓練、その内 1 回は夜間を想定して実施しました。
- ・自然災害に備え、食品・飲料水等の備蓄を確保しつつ、使用期限が到来した備蓄品については適宜更新しました。
- ・新型コロナウイルス感染症の集団感染に備え、衛生用品を中心に必要量を備蓄しました。
- ・火災や地震等の自然災害、感染症等の危機事態の発生時に、ご入居者と職員の安全を守りながらサービス活動を提供するための事業継続計画（BCP）を作成しました。

④広報活動

- ・ホームページや広報誌の媒体を用いて法人の活動内容等を広く周知するとともに、同和園後援会、同和園応援団の取組み等についても周知しました。

（２）人事課

①職員が成長でき定着する職場環境の整備

- ・働きやすい職場環境づくりや職員のキャリアアップを目指したキャリアパスプロジェクトを編成しました。
- ・評価シート等を見直し、人事考課の再構築を進めました。
- ・職員の確保・定着を図るため全正規職員の基本給を定期昇格に加えて一律 2,000 円引き上げました。
- ・ワークライフバランスを重視し超過勤務削減に取り組みました。

②計画的な職員採用の推進

- ・インターンシップ、福祉系学校の実習受け入れを積極的に行い、同和園の魅力、福祉職のやりがいを伝えました。
- ・ホームページのリニューアル、YouTube チャンネルの開設、Instagram、X（旧 Twitter）で、同和園の魅力、福祉の魅力を発信することで SNS からの採用応募に繋がりました。
- ・就職フェアや就職説明会への参加、学校訪問を積極的に行い、新規卒業者を 17 名（福祉系学卒 10 名）採用することができました。
- ・新人歓迎会開催など福利厚生等の充実を図りました。
- ・離職者数は前年度から 9 名減の 20 名にとどまりました。

③職員育成の推進

- ・新人職員研修、中途採用者研修、コミュニケーション力向上研修を実施し、職員の能力向上に努めました。
- ・上司と部下の定期的なコミュニケーションを促すための 1on1 面談が定着するよう推

進会議を行い、日頃の悩みや自身のキャリア形成に関して定期的に話せる場を構築できました。

- ・介護福祉士受験対策講座を開催し、受講者 7 名の内 3 名が合格しました。

(3) 国際人材育成支援室

① 外国人介護職員採用状況（令和 5 年 4 月 1 日～令和 6 年 3 月 31 日現在）

【全体：26 名】

	中国	フィリピン	ベトナム	ミャンマー	インドネシア	計
在留資格「介護」			1 名	1 名		2 名
特定技能 介護	2 名	3 名		5 名		10 名
技能実習生				8 名		8 名
介護留学奨学金生	1 名	1 名		1 名	1 名	4 名
その他留学生アルバイト			1 名	1 名		2 名
計	3 名	4 名	2 名	16 名	1 名	26 名

*令和 6 年 4 月 1 日付での在職人員は、フィリピン人職員 2 名退職し、計 24 名在職

②外国人介護人材の確保と育成支援

ア) 技能実習生から特定技能への移行

- ・令和 2 年 2 月より中国から受け入れた 5 名（男性 2 名、女性 3 名）のうち 3 名が 実習終了し帰国。2 名は特定技能介護へ移行し引き続き同和園にて勤務。
- ・ミャンマー人技能実習生 8 名は令和 5 年度に受け入れ技能実習 2 年目を迎えており、受け入れ後は、定期的な介護研修と日本語研修の支援を実施しました。

イ) 介護留学奨学金生の介護福祉士国家試験合格

令和 5 年 4 月 1 日に採用した 4 名の介護留学奨学金生は全員介護福祉士国家試験（合格率 62%）に合格しました。

ウ) 令和 5 年度特定技能採用者 5 名の受け入れ

令和 5 年 8 月に特定技能としてミャンマーから 5 名受け入れ、入国後 1 か月間研修を行い令和 5 年 9 月 1 日より各ユニットで勤務を開始しました。

③新たな外国人介護人材

国内での採用活動に一定の成果もあり、令和 6 年度については新たな技能実習生や特定技能について受け入れは行わず、令和 6 年 4 月以降国際人材育成支援室は、人事課の国際人材育成支援担当として従来業務を引き継ぐこととなりました。

(4) コミュニティカフェ

コミュニティカフェ倶会一処においては、新型コロナウイルス感染症により中止していた地域ケア委員会での活動や「ブリザーブドフラワー教室」など年度後半より順次活動が再開しました。

コミュニティカフェ工房「ひのぼっこ」においては、新型コロナウイルス感染症の影響により従来のカフェ本来の機能が果たせないことから、令和5年7月をもって休止しました。担当していました併設する日野の家「げんさんち」通所介護事業所から委託されていたご利用者への食事の提供については同和園本部の給食室から行いました。

〈 コミュニティカフェ「倶会一処」 〉

売上実績

(単位：千円)

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計	平均
売上計	1296	1325	1685	1333	1250	1631	1262	1223	1575	1180	1157	1868	16785	1399

令和4年度実績売上 16,025 千円

〈 コミュニティカフェ工房 ひのぼっこ 〉

売上実績

(単位：千円)

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計	平均
デイ委託	409	356	418	428	—	—	—	—	—	—	—	—	1611	403
カフェ	151	164	250	293	—	—	—	—	—	—	—	—	858	214
合計	560	520	668	721	—	—	—	—	—	—	—	—	2469	617

令和4年度デイ委託売上 5,002 千円

令和4年度カフェ売上 2,253 千円

以上